

1. プーリアン(東京大学医学部教育研究棟 鉄門カフェ)(撮影:阿野太一)
2. 2018年度の建築構造デザインスタジオで製作した羽衣構造
3. 3Dプリント技術を用いたセルフビルド建築PENTA(撮影:山中俊治)
4. 東京大学工学部1号館「KAJIMA HALL:15号講義室」(撮影:西川公朗)

# 内在するアート キャンパスの修景

2023年度東京大学芸術創造連携研究機構シンポジウム

ACUT  
ART CENTER  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

申込不要  
・  
聴講無料

2023年10月2日(月)

14:30 - 18:30 (14:00 開場)

本郷キャンパス 医学部鉄門記念講堂 (医学部教育研究棟14階)



交通案内 | 東京大学本郷キャンパス(東京都文京区本郷7-3-1)  
営団地下鉄丸の内線・都営地下鉄大江戸線「本郷三丁目駅」下車徒歩約10分  
お車でのご来場はご遠慮ください。

問合せ先 | 東京大学芸術創造連携研究機構  
<https://www.art.c.u-tokyo.ac.jp/contact/>

主催:東京大学芸術創造連携研究機構

後援:公益財団法人かけはし芸術文化振興財団



東京大学芸術創造連携研究機構 (ACUT:アキュート) は、シンポジウム「内在するアート キャンパスの修景」を開催します。ACUTは、芸術創造に関連する多様な分野の研究者が連携し、芸術家との連携・協働も行いながら分野融合型の研究を推進するとともに、芸術的感性の養成を通じた多様な価値観や創造的な発想力を持つ人材を育成することを目指しています。

本シンポジウムは、東京大学構内の建物の改修・改装および実験的なパヴィリオンなどの実例を踏まえて、キャンパスの修景を議論しつつ、いかに学問の場である大学にアートを内在させて、サイエンスと架橋するかについて考察します。工学系研究科、医学系研究科、新領域創成科学研究科、生産技術研究所の教員が携わった事例について、各教員から報告します。報告には、改修・改装に携わった鈴野浩一氏(建築家・トラフ建築設計事務所)と安東陽子氏(テキスタイルデザイナー・コーディネーター)にもご参加いただきます。さらに永山祐子氏(建築家・永山祐子建築設計)もお招きしてお話していただいた後、登壇者でパネルディスカッションを行い、議論を深めていければと考えています。

2023年度東京大学芸術創造連携研究機構シンポジウム

## 内在するアート キャンパスの修景

2023年10月2日(月) 14:30 - 18:30 (14:00開場)

### 式次第

14:30	開会の辞	岡田猛(機構長・教育学研究科)
14:35	企画趣旨説明 「内在するアート、その挑戦」	田中庸介(医学系研究科)
14:55	事例報告 「東京大学医学部教育研究棟鉄門カフェ(2007)から近作まで」 「壊れても死なない構造」を追求しながら華やかに彩る冬の風物詩	鈴野浩一(建築家) 佐藤淳(新領域創成科学研究科)
	休憩	
16:05	「デジタル技術を用いたセルフビルド建築PENTA」 「東京大学工学部1号館「KAJIMA HALL:15号講義室」	今井公太郎(生産技術研究所) 千葉学(工学系研究科)+安東陽子(テキスタイルデザイナー・コーディネーター)
17:05	ゲストプレゼンテーション 「建築というきっかけ」	永山祐子(建築家)
17:35	パネルディスカッション	
18:25	閉会の辞	加治屋健司(副機構長・総合文化研究科) 司会:高木紀久子(総合文化研究科)

### 安東 陽子 あんどう・ようこ / テキスタイルデザイナー・コーディネーター

武蔵野美術大学短期大学部グラフィックデザイン科卒業。株式会社 布での勤務を経て、2011年に「安東陽子デザイン」設立。「みんなの森 ぎふメディアコスモス」(伊東豊雄建築設計事務所)、「白井屋ホテル」(藤本壮介建築設計事務所)など、多くの建築家が設計する公共施設や個人住宅などにテキスタイルを提供している。多摩美術大学客員教授。

### 今井 公太郎 いまい・こうたろう / 東京大学 生産技術研究所 教授

専門は建築設計・都市解析。作品にIISアンバーサリーホール(2013年)、千葉実験所研究実験棟(2017年)。現在進めているプロジェクトPENTA(2018年〜)や津波避難複合施設(2021年〜)を通じて、新しいビルディングタイプの開発に取り組んでいる。著書に『建築のデザイン・コンセプト』(彰国社、2013年)。

### 岡田 猛 おかだ・たけし / 東京大学 大学院教育学研究科 教授

専門は心理学、認知科学。特に、芸術創作活動のフィールドワークや心理実験、芸術表現の教育支援の実践研究などに従事。共編著に『触発するアート・コミュニケーション 創造のための鑑賞ワークショップのデザイン』(あいり出版、2023年)など。

### 加治屋 健司 かじや・けんじ / 東京大学 大学院総合文化研究科 教授

専門は表象文化論、現代美術史。著書に『絵画の解放 カラーフィールド絵画と20世紀アメリカ文化』(東京大学出版会、2023年)。日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ代表。

### 佐藤 淳 さとう・じゅん / 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 准教授

1970年愛知県生まれ滋賀県育ち。1995年東京大学大学院修士課程修了。木村俊彦構造設計事務所勤務を経て2000年佐藤淳構造設計事務所設立。2010年東京大学特任准教授、2014年より准教授。2016年スタンフォード大学客員教授。2021年ヴェネチアビエンナーレで金獅子賞を受賞したUAEパビリオンに協力。

### 鈴野 浩一 すずの・こういち / 建築家

2004年に禿真哉とトラフ建築設計事務所設立。建築の設計をはじめ、インテリア、プロダクトなど多岐に渡り、建築的な思考をベースに取り組んでいる。主な作品に「港北の住宅」「空気の器」「Big T」など。「空気の器」はモントリオール美術館永久コレクションに認定。2016年『トラフ建築設計事務所 インサイド・アウト』(TOTO出版)を刊行。<http://torafu.com/>

### 高木 紀久子 たかぎ・きくこ / 東京大学 大学院総合文化研究科 特任助教

専門は認知科学、芸術心理学。特に芸術家の創作プロセスと芸術創作の教育支援について、実践的な研究に従事。共編著に『Arts-based Methods in Education Research in Japan』(Leiden: Brill, 2022)など。

### 田中 庸介 たなか・ようすけ / 東京大学 大学院医学系研究科 講師

細胞生物学者、詩人。1969年東京生まれ。オルガネラの細胞内局在が個体を統御する機構についての論文多数、研究室のある医学部教育研究棟の修景を担当。詩集に『びんくの砂袋』(詩歌文学館賞)など5冊、海外にも多くの翻訳がある。

### 千葉 学 ちば・まなぶ / 東京大学 大学院工学系研究科 教授

専門は建築意匠、都市空間デザイン。代表作に日本盲導犬総合センター(2009年日本建築学会作品賞)や工学院大学125周年記念総合教育棟(2014年村野藤吾賞)、著書に『人の集まり方をデザインする』(王国社、2015年)。

### 永山 祐子 ながやま・ゆうこ / 建築家

1975年東京生まれ。2002年永山祐子建築設計設立。2020年より武蔵野美術大学客員教授。主な仕事に「LOUIS VUITTON 京都大丸店」(2004年)、「豊島横尾館」(2013年、JIA新人賞)、「ドバイ国際博覧会日本館」(2020年)、「JINS PARK」(2021年、WAF賞、IFデザイン賞等)、「東急歌舞伎町タワー」(2023年)など。2025大阪関西万博パビリオン計画、東京駅前常盤橋プロジェクト「TOKYO TORCH」(2027年)が進行中。<http://www.yukonagayama.co.jp/>